

巻 頭 言

グローバル化時代の技術開発

常務取締役 白石哲男



我が国の経済は、半世紀にわたり各産業とも生産技術力、優れた人材、管理技術力等を武器に、右肩上がりの成長を続けてきましたが、バブル経済の崩壊を境に今まで内在されていた様々な問題が露呈し、先の見えない長い低迷状態に入り込んでいます。これまで日本経済をリードしてきた、自動車、電子・半導体、鉄鋼、建設等あらゆる産業が同時に低迷し、米国を除くほとんどの国の経済が停滞するという状況も従来経験のないパターンであり、経済の活性化を求めて手探りの対策が続けられています。

一方、情報・通信や輸送機関の発達とともに、国境を越えた経済活動が加速度的に活発になり、いつのまにか大競争時代と呼ばれる優勝劣敗の激しい競争が展開されるようになってきました。それとともに、経済の自然現象とも言える企業間の提携、合併、買収などが世界規模で展開され、次なる競争に向けて再編成がダイナミックに進行しています。中でも、当社の主要な顧客の一つである自動車とその関連企業は再編成の大きな流れの中にあり、グローバルスタンダードを目指して競争を激化させています。また、自動車には環境対策、省エネルギー、情報化対応、安全性向上、コストダウン等多くの開発課題が課せられています。これらの課題をクリアするためには膨大な開発投資が必要なことから、その縮減と開発効率向上のため、調達方式を従来の系列から世界最適へ、単品納入からユニットあるいはモジュール方式へと移行しつつあり、関連企業にも受注型営業から提案型営業へと対応の変化が求められているところです。

そのような中であって、当社は「選別と統合」の考えに立ち、大競争時代に対応すべく機構改革を実施したところですが、開発体制もまた時代背景に合わせて変更しました。そのポイントの1つは、グローバル化に対応した開発体制の強化であり、ロボットを中心に米国にも開発拠点を設け、インターネットを活用しながら24時間体制で開発を進めています。

第2には、今まで別々に活動していた工具と工作機械部門を機械工具事業部とし、軸受と油圧部門を部品事業部として統合したことであります。そのシナジーとして各々が持っていたシーズ技術を活用し、従来は手がけにくかった領域の商品開発にも取り組むことができるようになり、顧客ニーズに対しより幅広い面からの対応が可能になったと考えています。

第3は、開発体制のフレキシブル化と、開発サポート体制の強化を行ったことであります。具体的には、本社の開発部門にプロジェクトチームを編成し、重要案件に対しては開発資源を積極的に投入して短期間で開発を行い、顧客ニーズに迅速に対応できるようにしました。さらに、CAE解析を積極的に活用して、解析・開発・評価のサイクルを早く回して、開発期間を短縮するよう本社開発部門の解析チームを強化しました。

この新しい開発体制が、QCDで顧客に満足していただける世界No.1商品と技術を提供するものと期待しています。

ナチ不二越はこれらの商品を前面により幅広い対応力をもってナチ・ビジネスを展開してまいり所存でございます。倍旧のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。